本書の構成と特色

初任者の先生方から、
ベテランの先生方まで。
すべての先生方が、
子どもたちに寄り添える教科書。

子どもたちにとっては
一時間、一時間が、
自分と向き合う大切な時間。

一年間、書きつづった道徳ノートは、
大切な「心の記録」。

だから、成長を実感できる。
先生方が、保護者の皆様が、
そして子どもたち自身が。

本書のしくみと活用方法については
（P6～11）

二冊を併用した授業で子どもたちの成長を実感

本　冊　みんなで考え、話し合う

別　冊　自分を見つめ、考える

二冊の相乗効果で、児童の豊かな情操と道徳心を培います

自分を見つめ、考える

書くことを通して自問と内省へと導き、道徳的思考をいっそう深め、道徳的価値（内容項目）の理解を確かなものにします。

みんなで考え、話し合う

教材をもとに考える主体的・対話的な学習を通して、多面的・多角的な思考を促し、自己の生き方についての考えを深めます。

豊かな自己の形成

いじめ防止と人権尊重「いのち」の教育の充実

誰ひとり、
いじめで傷つかないでほしい。
いじめで誰かを傷つける、
そんな生き方はしないでほしい。

自分の人生を自分らしく「生きる」。
他者とともに手を取り合って「生きる」。
人が生きるということの、
本当の尊さや素晴らしさを、
子どもたちに伝えたい。

『小学生の道徳』には、
そんな願いが込められています。

本書の重点内容や全体の構成については
（P12～15）

選りすぐりの教材が豊かな心を育みます

思わず涙があふれる感動の実話、
心がほっこりする名作の数々。
オリンピック、パラリンピックで
活躍するスポーツ選手や、
歴史上の偉人たちの物語。

これまでの道徳が大切にしてきた
数々の心温まる教材を、
そして、子どもたちが目を輝かせ、
胸をときめかせる教材を、
選び抜きました。

本書の掲載教材の紹介は
（P16～23）

本書のしくみ

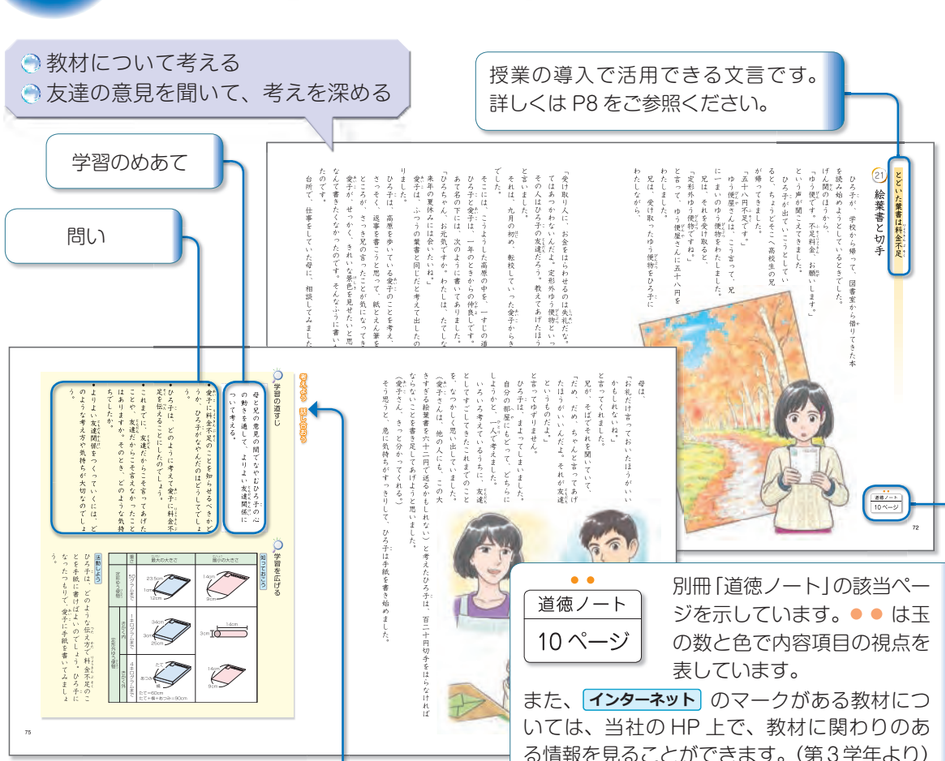
本冊　みんなで考え、話し合う学習に

教材について考える
友達の意見を聞いて、考えを深める

授業の導入で活用できる文言です。
詳しくは P8 をご参照ください。

学習のめあて

問い



道徳ノート
10 ページ

別冊「道徳ノート」の該当ページを示しています。●● は玉の数と色で内容項目の視点を表しています。

また、インターネット のマークがある教材については、当社の HP 上で、教材に関わりのある情報を見ることができます。（第３学年より）

考えよう　話し合おう

児童の主体的・対話的で深い学びを促すための、手がかりとなる内容をさまざまな観点から示しています。

学習の道すじ

［　　］には、本時の「めあて」を示しました。

「めあて」を確認することで、児童は学習の見通しをもつことができ、児童の主体的な学びの助けとなります。

また、教材を考えていくための道筋を分かりやすく示すため、いくつかの問いを掲載しました。話し合いのきっかけとして授業で活用できる問い、児童が「自我関与」できる問いを配しています。

学習を広げる

当該の教材や内容項目と関連して、児童がいっそう学習を広げることができる内容を、さまざまな切り口から掲載しています。

体験的な学習や読書活動などを通して、「道徳的諸価値」への思考を深めることができます。

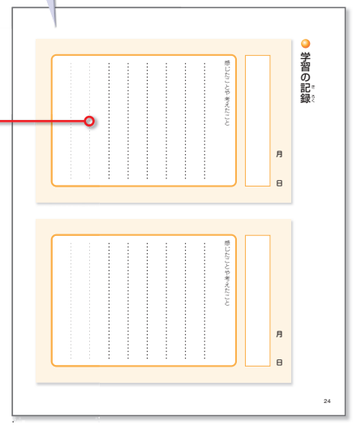
もっと考えよう　本のしょうかい
知っておこう　人物のしょうかい
活動しよう　このひとこと

別冊ノート　自分を見つめ、考える学習に

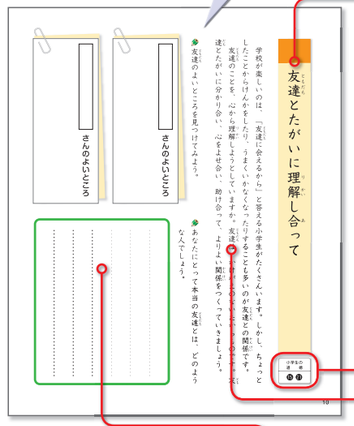
自分の学びを記録する

価値について考える
自分を振り返る

学習の記録ページ



内容項目ページ



発達の段階に応じて内容項目を示しています。

小学生の道徳
15 21

該当する本冊「小学生の道徳」の教材番号を表しています。

毎時間の学びを記録していくページです。
年間の授業時数分（第１学年は書く活動が可能になる時期を考慮して 24 時間分）の記述欄を巻末にまとめ、時系列に沿って記述・振り返りができるようにしました。児童の成長実感を促すとともに、期間的なまとまりを踏まえた評価を行う上での手がかりとして活用することができます。

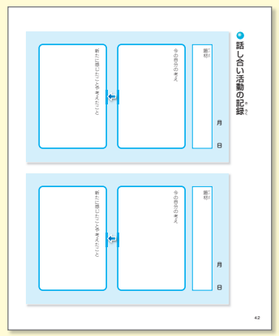
ページ左
各内容項目について自分自身を見つめる活動や問い。自己の振り返りを促す学習活動などに活用できます。

ページ右
児童の「道徳的諸価値の理解」を確かなものにする解説。

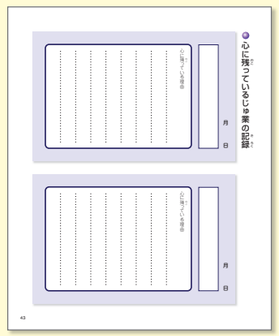
授業の構想に応じて活用できるさまざまなページ

授業で活用できる補助資料・教材

話し合い活動の際に（中・高学年）



学期末や年度末に



2 冊を活用した授業・評価については次のページから

本書を活用した授業のイメージ

二冊を併用することで、魅力ある授業が構想できます。

導　入

展　開

終　末

1……教材に入る前に

教材タイトル脇の文言は導入で活用できます。

「とどいた葉書は料金不足」こんな時、どういうことが起きるのだろう？　知っている人はいるかな？

第四学年　本冊

先に内容項目に触れることで、児童が「先読み」してしまい、自由な意見が出にくくなることもあります。教材を読んで、考えていく手がかりになるよう、文言を使い分けています。

Point　発達の段階に応じて、文言が異なっています

低学年では**学習する内容項目**を示しています。授業のめあてとして活用するとよいでしょう。

「ともだちとなかよく」することについて考えてみましょう。

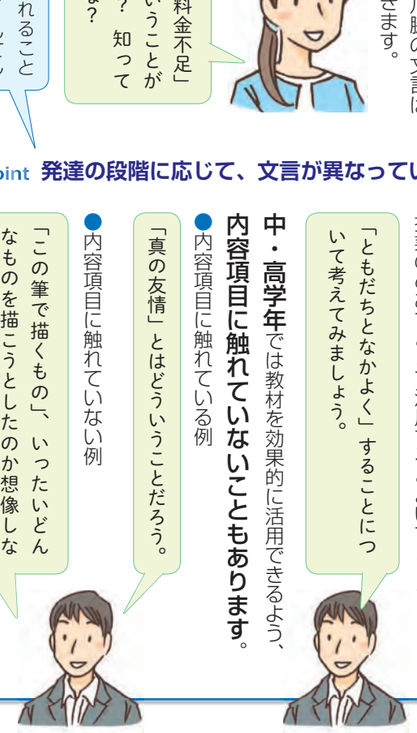
中・高学年では教材を効果的に活用できるよう、**内容項目に触れていないこともあります。**

●内容項目に触れている例

「真の友情」とはどういうことだろう。

●内容項目に触れていない例

「この筆で描くもの」、いったいどんなものを描こうとしたのか想像しながら読んでみよう。



2……教材を読んで

登場人物の行為や心情について、教師からの発問を通して考えていきます。

「考えよう　話し合おう」は、発問構成の一例です。

「ひろ子は、どのように考えて愛子に料金不足を伝えることにしたのでしょう。」

「ひろ子にとって、愛子はどのような友達なのでしょう。」

3……自分自身を振り返る

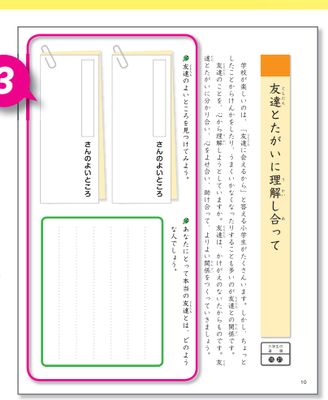
その後、教材で考えたことをもとに自分自身を振り返っていきます。

別冊の内容項目ページの問いも活用できます。書き込み欄に記入させるだけでなく、書いたことをもとに話し合ってもよいでしょう。

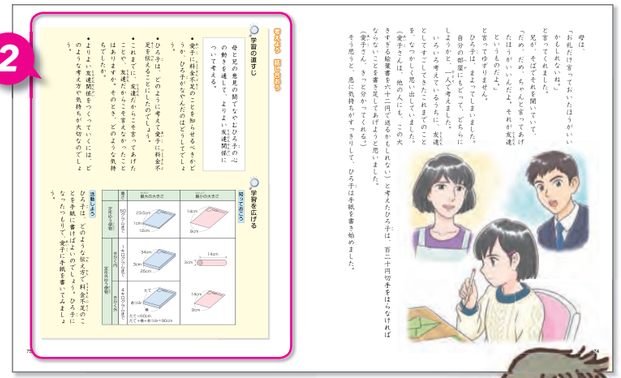
「あなたにとって、本当の友達とは、どのような人でしょう。」

4……授業の終わりに

授業を通して、感じたことや考えたことを「学習の記録」に記入します。

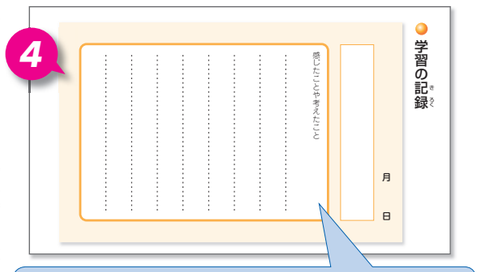


第四学年　別冊

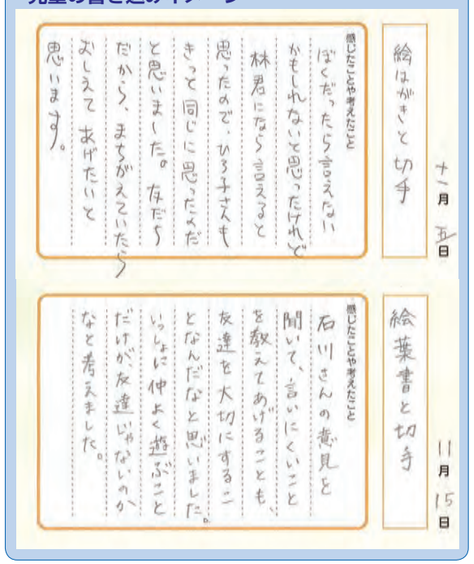


これらは一例であり、指導の構想に応じて、さまざまに活用することができます。

学習の記録ページ



児童の書き込みイメージ



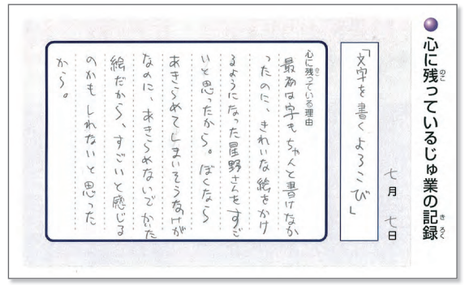
別冊ノートを活用した評価の工夫

道徳科で求められている「大くくり」の評価。児童の道徳的な成長を認め、励ましていく評価。本冊・別冊を併用する『小学生の道徳』には、評価の手がかりとなり、子どもたちの成長を実感できる工夫がたくさんあります。

学期末・年度末に

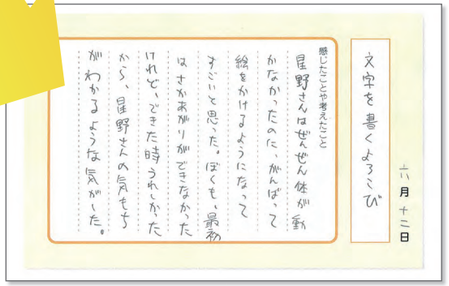
別冊巻末　心のしおり

別冊巻末　心に残っている授業の記録



「文字を書くよろこび」や「絵葉書と切手」で深く考えたんだな。「もどらない本」では疑問が残ったのかな……。

該当する授業の**「学習の記録」**を振り返る。



「文字を書くよろこび」が心に残っていたのか。

自分の経験を振り返りながら、くじけないことのよさや大切さについて考えたんだね。そういえば、授業の時に「○○○○」という発言があった！

評価の際の手がかりに

別冊ノートは児童の「心の記録」です

毎時間の学びをつづってきた別冊ノートは、いわば子どもたちの「心の記録」です。読み返すことで成長を実感できるのは、先生方だけではありません。

【児童が】児童自身が読み返すことで、自分の考えの変化や深まりに気付くことができ、自らの成長を実感できるでしょう。

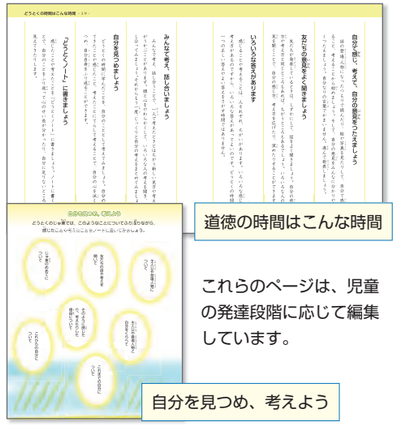
【保護者が】家庭との連携を図り、保護者にも読んでもらうことで、児童の成長をともに見守ることができます。

どうやって使う？　小学生の道徳

Q 道徳科での学習について児童がイメージできるページはありますか？

A 本冊と別冊それぞれに、学習のイメージを明確にできる工夫があります。

本冊2～3ページに掲載されている「道徳の時間はこんな時間」を活用して、道徳科の学習がどのようなものかをイメージし理解することができます。2年生以降の学年に掲載しており、発達の段階に応じて、児童に分かりやすい表現で示しました。



これらのページは、児童の発達段階に応じて編集しています。

また別冊巻末の「心のしおり」には、今次改訂において「自分を見つめ、考えよう」というページを設けました。これは道徳科で児童に考えてほしいさまざまな視点を示したものです。

ノートの「学習の記録」を記述させる際に参照することで、自己を見つめ、考えを深める手がかりになることでしょう。また、記述させる際だけでなく、授業全体を通して意識するポイントとして示してもよいでしょう。

Q 別冊ノートの内容項目ページは、毎回使わなければならないのですか？

A 必ずしも毎回使うものではありません。

別冊道徳ノートの内容項目ページは、内容項目の解説と書き込み欄で構成されています。これらは指導の構想に応じて、授業の導入や終末、展開の後半や事前・事後の学習など、柔軟に活用することができます。

例えば、教材での学びをもとに、自分の生活や体験を振り返ったり、道徳的価値について自分の考えを見つめたりする際に書き込み欄を活用することができるでしょう。

また、低学年などでは、授業の終わりに内容項目の解説を読み、学習のまとめをすることも考えられます。一方で、感動や余韻を大切にしたい授業においては、終末ではあえて解説に触れない方がよいこともあるでしょう。

別冊であるがゆえに、提示するもしないも先生方の自由であり、教材のタイプや授業のねらいによって、柔軟に活用することができます。

なお『教師用指導書』では、それぞれの教材の授業展開例とともに、別冊の具体的な活用方法をお示しする予定です。

Q ベテランの先生はノートにしばられて授業がしにくいのでは？　初任者の先生方や、道徳の授業に不慣れな先生方では使いきれないのでは？

A ワークシートではないので、指導の構想に応じて、自由に活用することができます。

巻末の「学習の記録（感じたことや考えたこと）」のページは、本冊の教材を用いた授業の振り返りとしての活用はもちろん、中心発問について自分の考えを記述させたり、「思いやりについて考えたこと」などテーマを設けて記述させたりする方法も考えられます。すでに発問が書かれているワークシートと違って、先生方の創意工夫を図ることができるのです。

今次改訂では、年間の授業時数分（1年生は書く活動が可能になる時期を考慮して24時間分）の記述欄を巻末にまとめ、時系列に沿って児童の学習状況を確認することができるようにしました。児童の成長実感を促すとともに、期間的なまとまりを踏まえた評価を行う上での手がかりとして活用することができます。加えて、先生方が指導の改善を図る上でも貴重な資料となるでしょう。

また、2冊に分かれていることで一見、使い方が煩雑に感じられるかもしれませんが、❶教材を読んで、話し合わせる　❷学習の記録を記述させる　という指導過程はこれまでの道徳の実践となんら変わりません。むしろワークシート等の作成・管理の手間を省き、先生方の授業準備の負担を軽減することができるのです。

本書の重点内容

本書には全学年、各三時間・三教材を配当した重点項目があります。

本書の重点項目
（全学年共通）

- 善悪の判断、自律、自由と責任
- 親切、思いやり
- 生命の尊さ

重点項目に関する教材の一部は、二時間連続で配置し、**重点ユニット**となっています。
これによりいっそう指導の重点化を図ることができます。

なぜこの3つが重点なのか？

1 ……学習指導要領「総則」を踏まえて

2 指導内容の重点化（1）各学年を通じて配慮すること
小学校においては、生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実する観点から、各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心、他者を思いやる心の育成に配慮することが大切である。
小学校学習指導要領解説　総則編より抜粋

以上の「指導内容の重点化」を踏まえ、「自立心や自律性」「生命を尊重する心」「他者を思いやる心」の育成との関わりに留意しました。

2 ……いじめ防止との関わりを踏まえて

全学年の重点項目に設定した内容項目は、「いじめ防止」との関わりも深いと考え、重点的な指導が行えるよう留意しました。

※いじめ防止への留意点については、14ページからの内容もご覧ください。

3 ……「命の教育」の充実を踏まえて

いじめ防止を含んだ「命の教育」の充実は、最も重要な課題と考え、「生命の尊さ」を重点に設定し、「命の教育」の充実に資する教材を精選しました。

1年生　重点ユニットの例

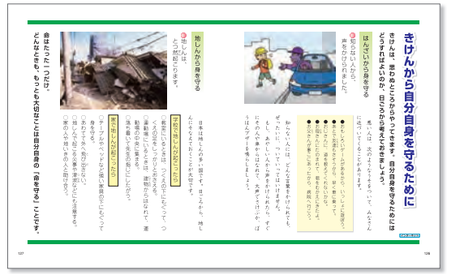
善悪の判断、自律、自由と責任

1年生では「生命の尊さ」にも重点ユニットがあります。

命の教育の充実

全学年に、「命の教育」特別ページを設けています

Point 低・中学年では「安全教育・防災教育」との関連を図り、「命を守る」特別ページを設けました



Point 高学年では生命を多面的・多角的に捉え、「生命の尊さ」について思考を深めます

内容項目「生命の尊さ」だけでなく、その他の内容項目の教材でも「生命の尊厳」について考えられる教材を掲載しています。

▲「キリンのみなみ」（2年生）

▲「文字を書くよろこび」（4年生）

▲「『がんばる』はぼくの宿題」（6年生）

※「生命の尊厳」に関わる教材については、P28～29の題材別・指導方法別教材一覧もご参照ください。

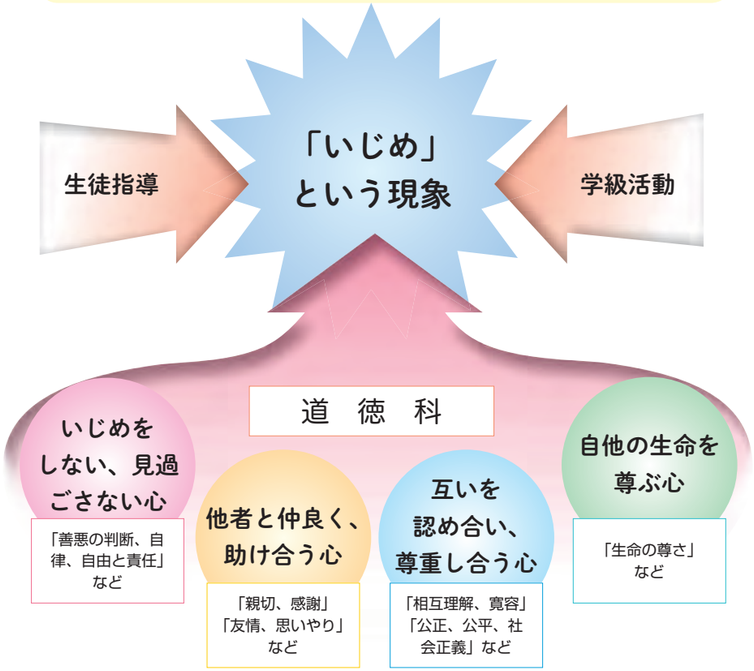
いじめ防止と人権尊重

いじめ・人権に関わる問題は、子どもたちにとっては特に切迫した状況にある課題として、道徳科での指導が求められています。

本書では、道徳科を通じて重点的な指導ができるよう全体を構成するとともに、発達の段階に応じて、適切な取り上げ方ができるよう配慮しています。

いじめ防止・人権尊重についての考え方

■道徳科に求められているのは、「いじめ」や「人権」に直接的に関わる題材を授業で取り上げることだけではありません。35 時間を通じて、自立した人間として、他者と共によりよく生きることについて、さまざまな視点から考えを深めていくことが大切であると考えました。



いじめ防止・人権尊重の観点

重点項目（３時間配当）の設定を含め、
いじめ防止・人権尊重の観点を踏まえて、全体を構成しています。

道徳科で育む心	深く関わる内容項目	配当時間		
		低	中	高
いじめをしない、見過ごさない心	善悪の判断、自律、自由と責任	3	3	3
他者と仲良く、助け合う心	親切、思いやり	5	5	5
	友情、信頼			
互いを認め合い、尊重し合う	相互理解、寛容		2	2
	公正、公平、社会正義	1		
自他の生命を尊ぶ心	生命の尊さ	3	3	3
	計	12	13	13

いじめ防止に関わる教材

いじめを題材とした教材は、特に児童や学級の実態に応じて、適切に取り扱うことが求められます。『小学生の道徳』では発達の段階を考慮し、いじめに関わる問題の取り上げ方を慎重に吟味した上で、教材を選定しました。

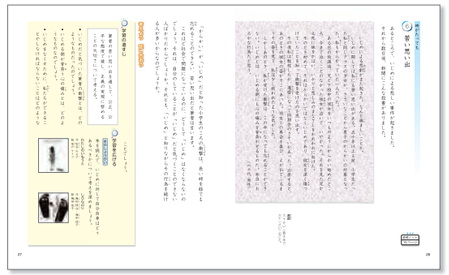
Point 低学年、中学年では「仲間はずれ」「友達同士のトラブル」等を題材としたものを掲載しています。学校現場での多様な実態を考慮し、あえて「いじめ」を直截に扱っていません。

▲「およげないりすさん」（１年生）

▲「げんたの消しごむ」（４年生）

Point 「いじめ」について深く考えられるようになる高学年では、直截にいじめを取り上げた教材を１編ずつ掲載しています。

▲「魚の世界」（５年生）



▲「苦い思い出」（６年生）

いじめ・人権に関わる教材
およげないりすさん／けいじばんのらくがき／ちいちゃんとブルくん／二わのことり（第１学年）
カメタのなみだ／だれにたくさんあげようかな／森のともだち（第２学年）
貝がら／よわむし太郎／母のせなか―渋沢栄一―（第３学年）
同じ仲間だから／げんたの消しごむ／正しいことは勇気をもって／わたしにはゆめがある―マーティン・ルーサー・キング・ジュニアー（第４学年）
金曜日の班活動／魚の世界／ぼくの名前よんで／ごめんね、おばあちゃん（第５学年）
苦い思い出／車いすの少女（第６学年）　など